（様式－1）

災　害　速　報

関西支部

発生日時	令和　6 年１１月６日（水曜日）９ 時４０分							天候	雨	
災害の程度	死亡　　名		負傷　１名		架線工			年令２１才	経験年数　１年	
工事の種類	調査 測量	伐採	運搬	仮設	基礎	組立	足場	架線	撤去	その他
災害の種類	墜落・転落	転倒	物の飛来・ 落下	崩壊・倒壊	はさまれ・ 巻き込まれ	切れ・ こすれ	感電	その他		
原因	作業準備 の不良	作業方法 の不良	工具防具 の不良	電気工作 物の不良	作業者 の過失 （調査	共同作業 者の過失	その他			

災害の状況

４導体スペーサ取付中における宙乗機滑走災害

【発生状況】

電線張替後、４導体スペーサ取付作業のため、宙乗機で移動を開始した
ところ、宙乗機が滑走し、クランプに衝突し被災した。

【工事内容】

４導体電力線張替工事（新線スペーサー取付作業）

【施工体制】

元請：Ａ社　　下請：Ｂ社

（構成）作業員９名

・作業責任者　男　50歳
・作業員Ａ　男　21歳（被災者）_経験年数１年
・作業員Ｂ　男　28歳　・作業員Ｆ　男　31歳
・作業員Ｃ　男　31歳　・作業員Ｇ　男　56歳（地上）
・作業員Ｄ　男　22歳　・作業員Ｈ　男　43歳（地上）
・作業員Ｅ　男　31歳

【発生経緯】

7:50 朝礼後、現場に向け出発
8:30 TBM-KYを実施後、作業開始。
9:20 災害発生
○○線№53-№54間の４導体スペーサ取付作業のため、№54側の電線に
宙乗機を設置。
被災者が宙乗機に乗り、移動しようとしたところ、宙乗機が№53側に滑走、
№53のクランプに衝突し被災した。
被災者は意識はあるものの自力降塔が不可の状態であった。
10:04 救急車要請
10:05 現場監督者より、店社安全衛生担当者に連絡。
10:15 現場監督者より、立会者・設計者に連絡
10:30 介助により被災者を地上へ移動。担架にて下山開始
11:35 ドクターヘリにて○○病院に搬送
14:18 被災者容体判明。一度目の手術を実施。

【被災状況】

被災者：右大腿骨遠位端開放骨折　　（11/11　２度目の手術実施）

【安全装備】

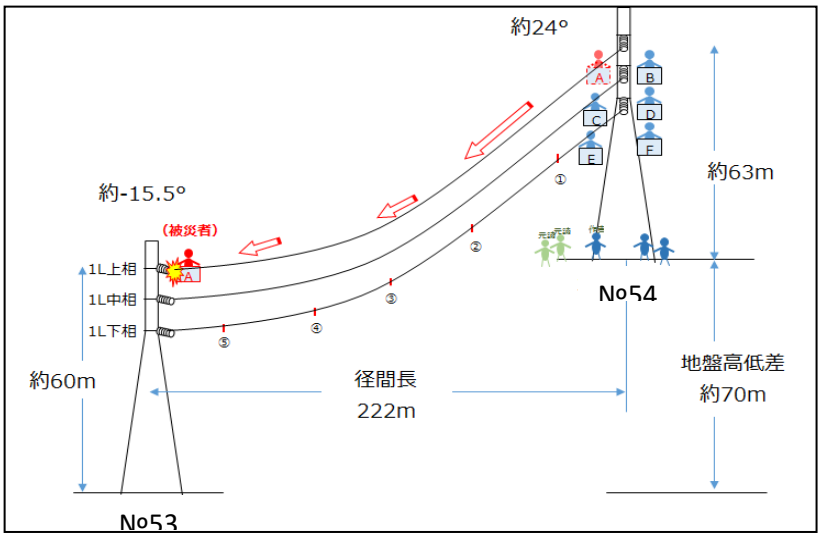
保安帽、墜落制止用器具、安全靴、手袋

（様式－2）

災　害　概　要　図

（発生概要）

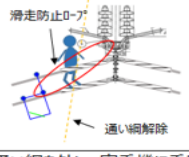
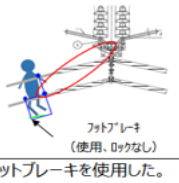
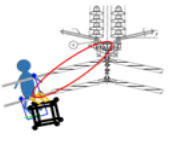
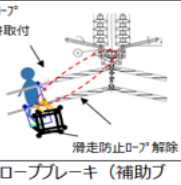
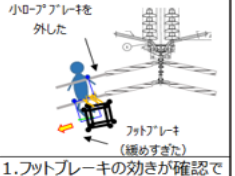
No.53　向老



【事実１】

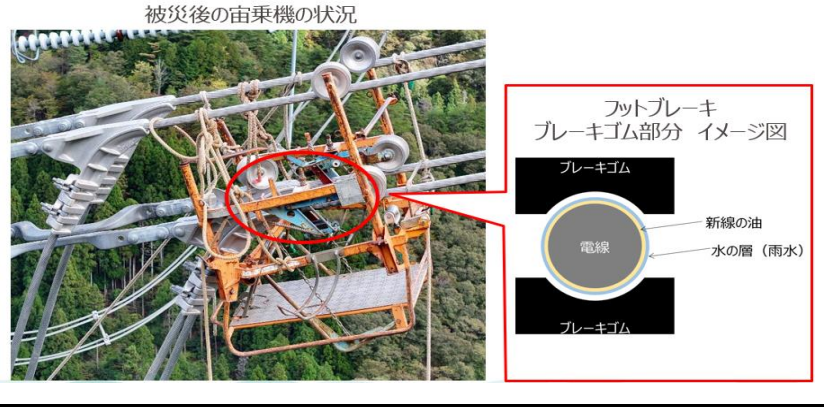
・ブレーキテストによりフットブレーキの正常動作が確認できたため、小ロープブレーキを外した。

・その後、移動すべくフットブレーキを徐々に緩めようとしたが、予想以上に緩み宙乗機が滑走し被災に至った。

ステップ番号		1	2	3	4	5
被災時の状況	概要図					
	作業内容	1.通い綱を外し、宙乗機に乗り込んだ。 ※AR先の電線に宙乗機を直接取り付けた為、惜しみロープは付けていない。	1.フットブレーキを使用した。 ※ロックはしていない。	1.スペーサを宙乗機に積込んだ。	1.小ロープブレーキ（補助ブレーキ）を電線に取付けた。 2.滑走防止ロープを緩め、フットブレーキのテストをし、フットブレーキが正常に動作していることを確認した。 3.滑走防止ロープを取り外した。	1.フットブレーキの効きが確認できたため、小ロープブレーキを外した。 2.移動の為、フットブレーキを緩めたが緩めすぎた為、速度が大きくなり、ブレーキを更に踏みこむも機能せず滑走した。 ※スペーサ撤去時も同様の手順で移動を行ったが宙乗機は滑走しなかった。 ※当日は雨天かつ新線（油分多）であった事から、制動しにくい状況であった。

【事実２】

・今回の作業の前に旧線でのスペーサの取外作業があり、同様の手順で移動を行ったが宙乗機は滑走しなかった。

・今回の作業は新線での作業であり、電線に油分が多く包含されていたこと、また、雨天での作業であったことから、宙乗機が制動しにくい状況であった。

被災後の宙乗機の状況